

# 兵庫県 の 地震 活動

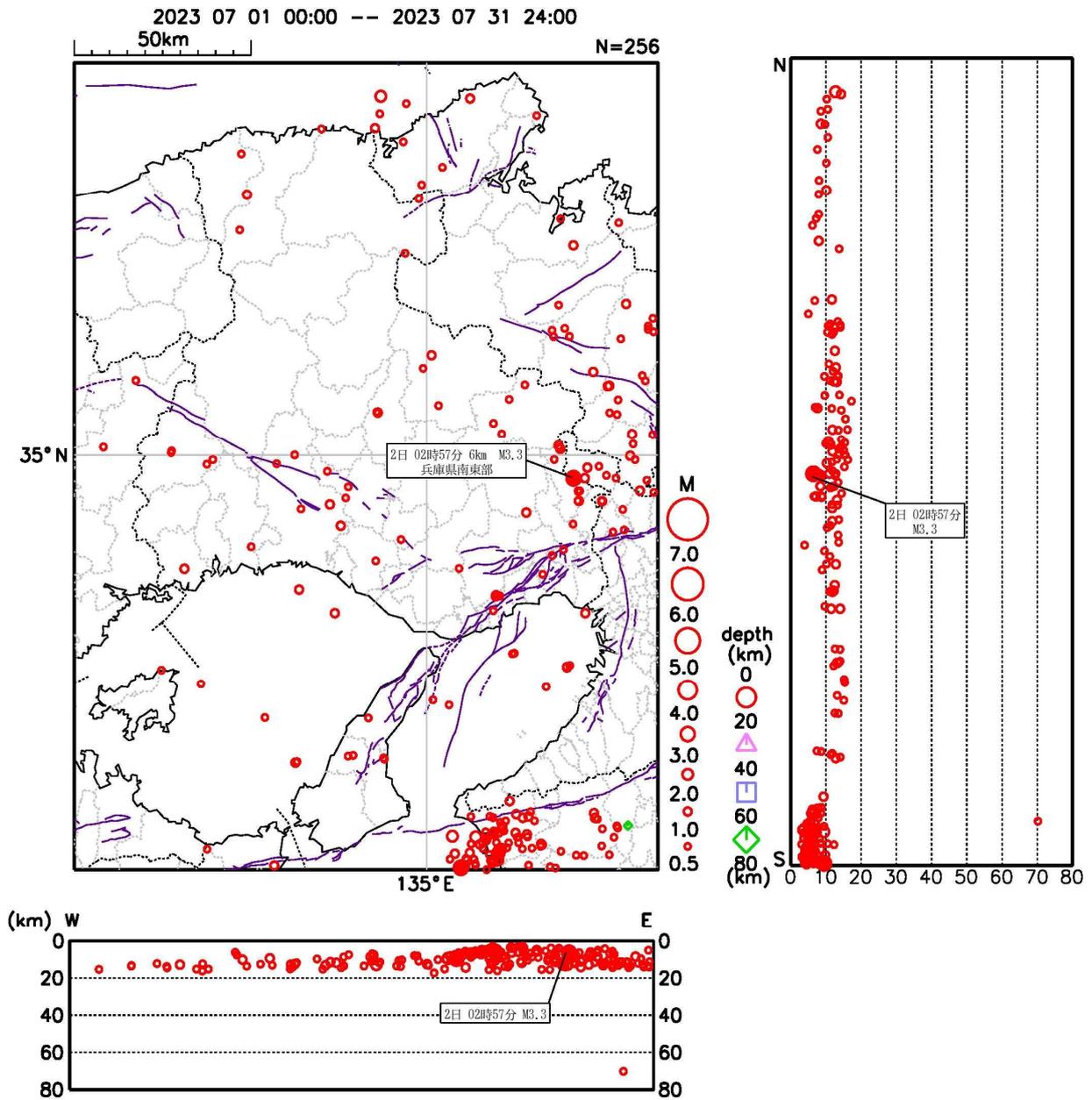
2023 年（令和 5 年） 7 月

震央分布図・断面図	1
概況	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震一覧表	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	3
一口メモ	
「防災の日」に災害への備えを再確認しよう	4

- \* 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- \* この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- \* また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

# 震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図  
注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

## 概 況

―― 7月の概況――

今期間、兵庫県内では震度1以上の地震を2回観測しました。

2日02時57分 兵庫県南東部の地震（深さ6km、M3.3）により、三田市で震度2を観測したほか、丹波篠山市、猪名川町で震度1を観測しました。

16日14時22分 奈良県の地震（深さ64km、M4.0、前掲震央分布図範囲外）により、南あわじ市で震度1を観測しました。

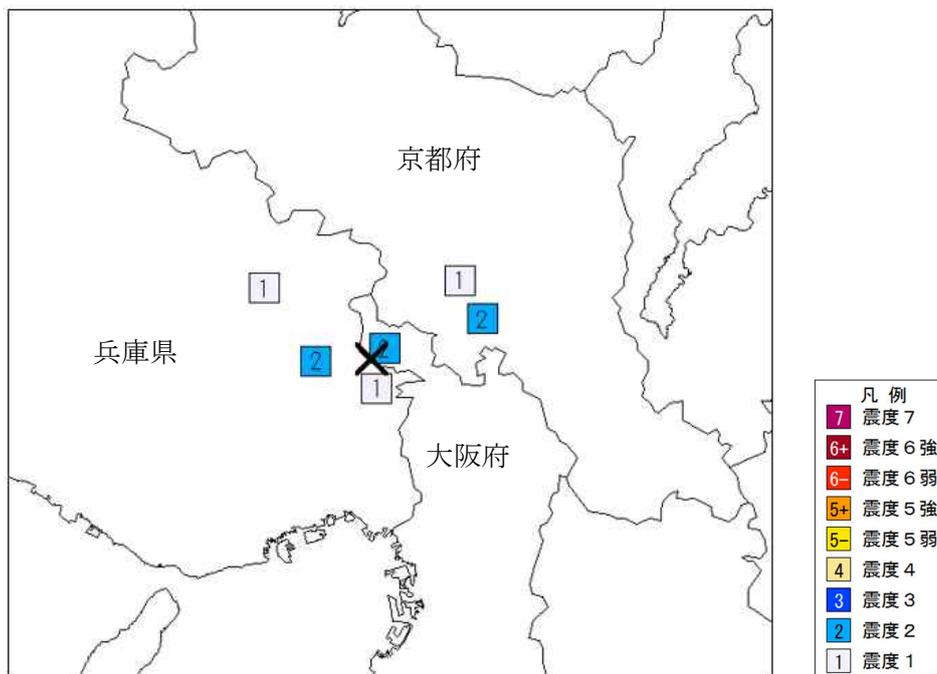
## 兵庫県で震度1以上を観測した地震一覧表

地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード	全国最大震度
各地の震度（兵庫県内）						
7月2日 02時57分	兵庫県南東部	34° 57.1'	135° 22.3'	6km	M3.3	震度2
震度2：三田市下里＊ 震度1：丹波篠山市杉＊,猪名川町紫合＊						
7月16日 14時22分	奈良県	34° 05.4'	135° 35.5'	64km	M4.0	震度2
震度1：南あわじ市福良						

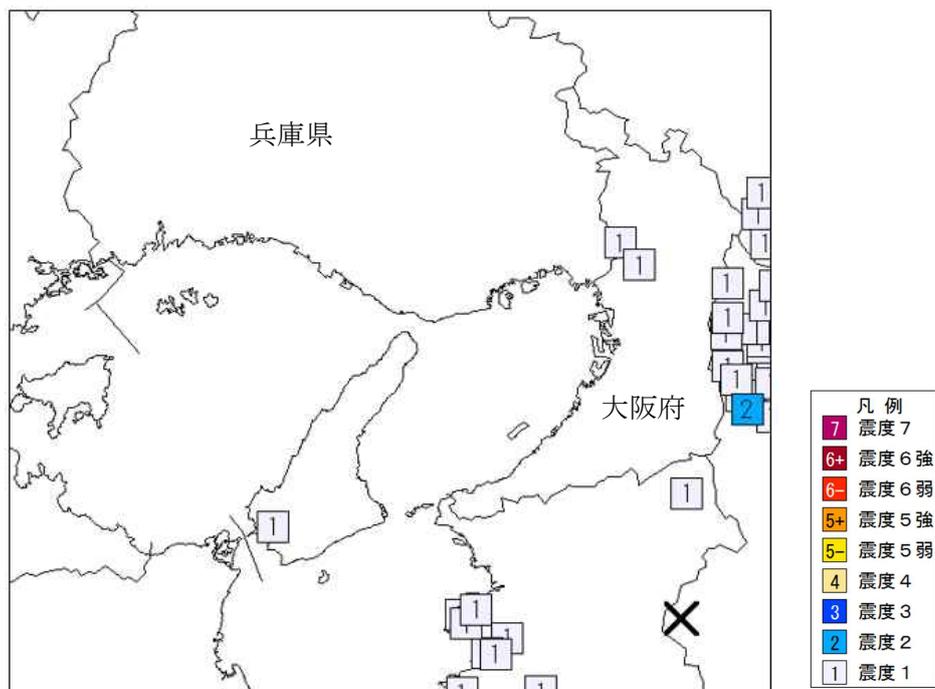
震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載されます。なお、＊印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

## 兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図

7月2日02時57分に発生した、兵庫県南東部の地震による震度分布図（観測点震度）。×印は震央を表す。



7月16日14時22分に発生した、奈良県の地震による震度分布図（観測点震度）。×印は震央を表す。



## 一口メモ 「防災の日」に災害への備えを再確認しよう

9月1日は防災の日です。防災の日が9月1日となった理由の一つに100年前の関東大震災があります。もし今同じような大震災が発生すれば、地震・津波で大きな被害を受けないまでも、ライフラインが停止してしまい在宅避難をしないとイケなくなる可能性もあります。今回は、そんな時に困らないための食品備蓄のコツをご紹介します。

### 【 防災の日の由来 】

9月1日は、1923年に関東地震（関東大震災）が発生した日です。また、台風シーズンでもあり、1959年9月には戦後最大の被害をもたらした伊勢湾台風が発生しています。このことがきっかけとなり、1960年に災害に対する心構えなどを育成するために「防災の日」が制定されました。防災の日前後（8月30日から9月5日）は防災週間となります。この期間には、防災意識向上のため、防災訓練・防災イベントが開催されます。もし身近で開催されればぜひ積極的にご参加ください。

### 【 食品備蓄のコツとは 】

みなさんは万一の災害に備え、食品の備蓄をしていますか。いざ災害が発生すると、電気、ガス、水道などのライフラインが使えなくなったり、物流が機能しなくなったりするおそれがあります。過去の例によれば、災害発生からライフラインの復旧まで1週間以上かかるケースがほとんどです。また、災害支援物資が届かないことや、スーパーやコンビニで食品が手に入らないことが想定されます。このため、最低でも3日分、できれば1週間分くらいの食品を家庭で備蓄しておくことが重要です。

食品の備蓄は簡単に誰でも無理なく始められます。普段食べているカップ麺や缶詰、インスタント味噌汁など少し多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、食べたならその分を補充していただくだけです。備蓄のコツは、次の3つです。

- ・まずは、普段食べている食材を多めに買って、備える
- ・普段の食事で食べる
- ・食べたなら買い足して、補充する

蓄える→食べる→補充することを繰り返しながら一定量の食品が備蓄されている状態を保つので、ローリングストック法とよばれます。キャンプや山登りなどのアウトドアでも使える食品もありますので、ローリングストック法を日常生活の一部に取り入れてみましょう。



(参考) 食品備蓄のコツとは？ (政府広報オンライン)

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202103/2.html>